

清水義也 独立二十周年 記念能

花月
道成寺
赤頭

清水義也

清水義久

令和7年
5月5日 [月・祝]
12:30開演 (12:00開場)

二十五世観世左近記念 観世能楽堂

チケット一般発売開始
2月16日(日) 17:00~

- S席 18,000円
- A席 15,000円
- B席 12,000円
- C席 10,000円
- D席 8,000円
(全席指定・税込)

チケットお申し込み

◎ 清水義也能の会 (お問い合わせはこちらまで)

<https://choseikai.net/>
yoshinari.shimizu@gmail.com
 ☎ 090-3535-6998
 FAX 045-841-6516

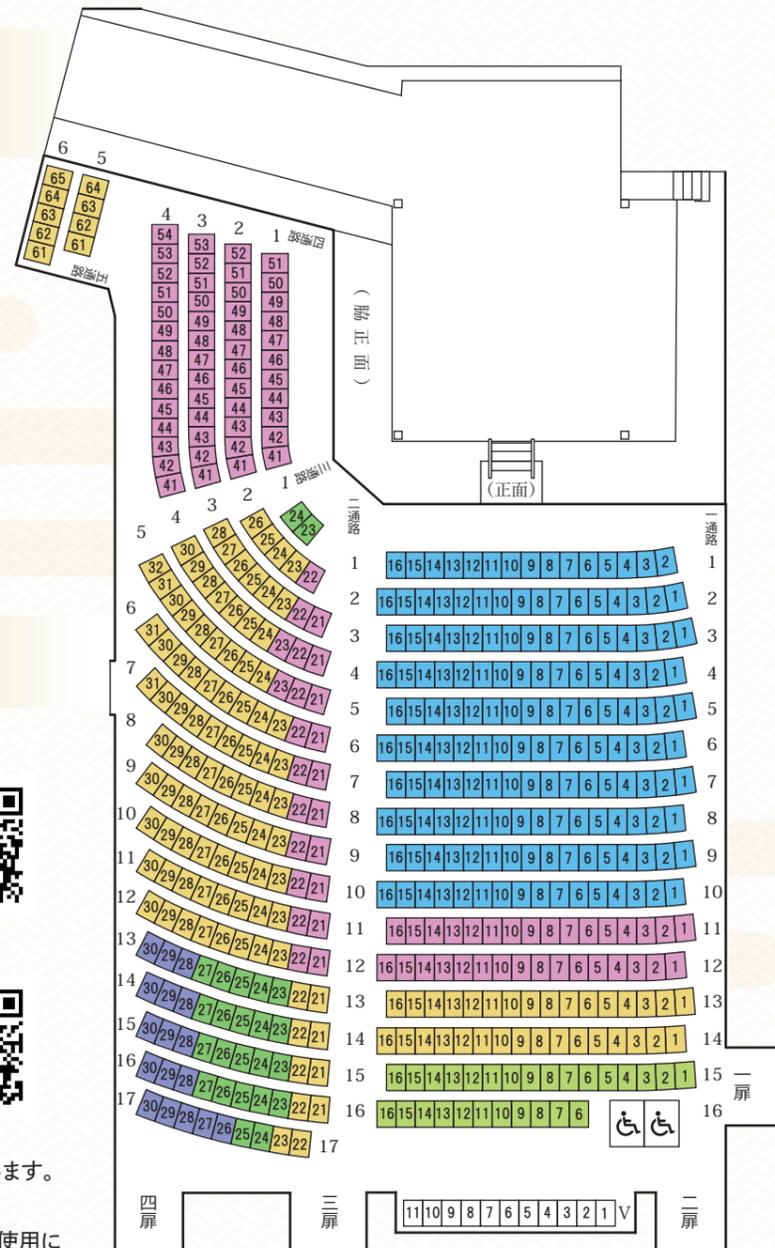


◎ KANZE.net

<https://www.kanze.net/>



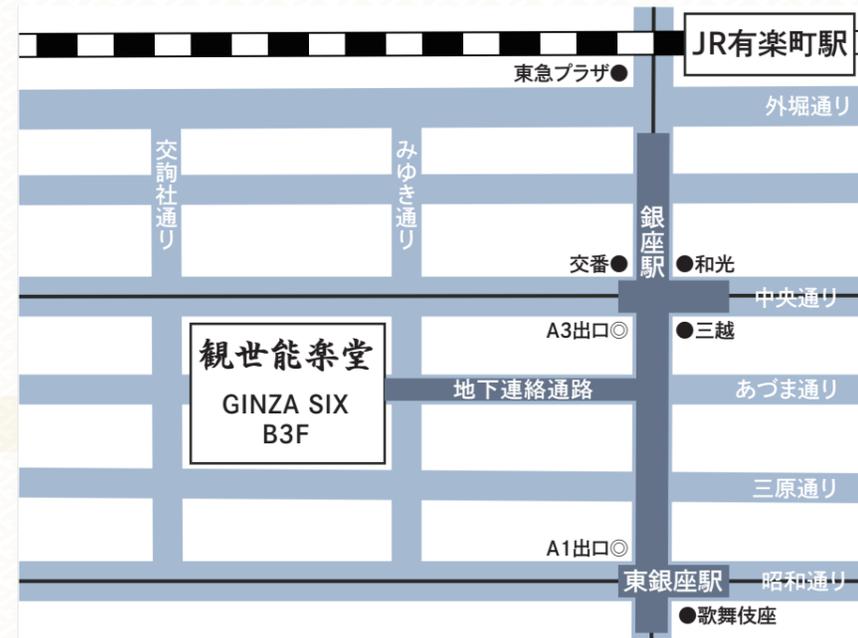
※諸般の事情により、演目・上演形式・出演者の変更の場合もございます。
 ※上演中の許可のない録音、録画、写真撮影はお断りいたします。
 ※客席内では携帯電話・スマートフォンの電源はお切りいただき、ご使用にならないようお願いいたします。



二十五世観世左近記念 観世能楽堂

東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 地下3階

- 銀座駅
東京メトロ銀座線・日比谷線・丸ノ内線
A3出口より徒歩2分
- 東銀座駅
東京メトロ日比谷線・都営浅草線
A1出口より徒歩3分
- 有楽町駅
JR山手線・京浜東北線・東京メトロ有楽町線
銀座出口より徒歩10分
- 銀座駅・東銀座駅よりGINZA SIX地下2階へ
直結の地下連絡通路をご利用いただけます



番組

仕舞

高砂

関根 祥丸

清経

木月 宣行

羽衣キリ

角 幸二郎

放下僧キリ

林 宗一郎

春日龍神小歌

坂口 貴信

能

花月 清水 義久

月

旅僧 御厨 誠吾

大鼓 亀井 広忠
小鼓 大倉 伶士郎

笛 一噌 隆晴

門前の者 野村 万作

後見 林 宗一郎
観世 三郎太

地謡 杉浦 悠一朗
武田 宗典
坂井 音隆

木原 康之
関根 知孝
岡 久広
浅見 重好

休憩 二十分

仕舞

老松

寺井 栄

定家

観世 恭秀

西行桜

武田 宗和

融

山階 彌右衛門

地謡

武田 宗典
坂井 音雅
藤波 重彦
武田 文志

独吟

近江八景

武田 志房

仕舞

砧

観世 清和

船弁慶キリ

観世 三郎太

狂言

樋の酒

太郎冠者 野村 萬斎

主人 野村 裕基
次郎冠者 高野 和憲

地謡

武田 宗典
藤波 重孝
関根 知孝
林 宗一郎

休憩 二十分

能

道成寺

白拍子 清水 義也

赤頭

從僧 矢野 昌平
住僧 福王 和幸
從僧 村瀬 慧

大鼓 安福 光雄
小鼓 飯田 清一 笛

梶谷 英樹
竹市 学

能力 野村 太一郎
内藤 連

後見 坂口 貴信
観世 清和
武田 尚浩

地謡

武田 祥照
井上 裕之真
坂井 音晴
野村 昌司

藤波 重孝
中島 志津夫
山階 彌右衛門
津田 和忠

鐘後見 上田 公威
角 幸二郎

木月 宣行
久田 勘吉郎

関根 祥丸

狂言 鐘後見

野村 裕基
深田 博治

中村 修一
飯田 豪

附祝言

(終演 十七時十分頃)

あらすじ

能 花月 かげつ

七歳の息子が行方知れずになってしまった筑紫国彦山の麓に住む人は、出家して諸国修行の旅に出た。都へとたどり着いた旅僧は、桜を見ようと清水寺に参詣する。

旅僧は門前で出会った人に何か面白いものはないかと尋ねる。門前の人には自然居士の弟子である花月という喝食(禪寺の稚児)の少年を見てほしいと言ひ、花月を呼んだ。そこへ現れた花月は、門前の人を勧めのままに小歌節に乗せて恋についての説法をする。そして鶯が桜の花を散らすのを見て弓矢で射落とそうとするが、仏教の殺生戒を破ってはならぬと弓矢を投げ捨てる。では次に清水寺縁起の曲舞をと所望する門前の人に応え、花月は本尊である千手観音の誓いについて歌い舞うのだった。

そんな花月を見ていた旅僧は、この少年こそ行方不明の我が子ではないかと気が付いた。旅僧は花月にいくつかの質問をしてから、自分が父だとな乗りに出る。

父との再会を喜んだ花月は八撥(羯鼓)を打って舞い、七歳の時に彦山で天狗にさらわれてから天狗に連れられ諸国の霊山を巡った様を歌うと、父である旅僧と共に仏道の修行に出るのだと喜び、旅立っていった。

狂言 樋の酒 ひのさけ

主人は、太郎冠者には米蔵、次郎冠者は酒蔵の番を命じ、絶対に持ち場を離れないよう言いつけて出かけていった。

二人での留守番は珍しく、しばらく窓越しに話をしていた太郎冠者と次郎冠者だが、太郎冠者がふと窓から酒蔵をのぞくと、次郎冠者が酒を盗み飲みしているのではないか。太郎冠者は羨ましがりますが、主人の言いつけがあるため、二人とも蔵を離れることは出来ない。太郎冠者にも酒を飲ませてやりたい次郎冠者は名案を思いつく。その方法とは……。

能 道成寺 赤頭 どうじょうじ あかがしら

桜の咲き乱れる春のある日、紀州の道成寺では再興された梵鐘の供養が行われようとしていた。鐘供養の前に住僧は能力(寺男)を呼び出して女人禁制を固く言い渡すが、やってきた白拍子に供養の舞を舞わせてほしいと頼まれた能力は、独断でその白拍子を入れてしまう。

白拍子は烏帽子を着け、舞を舞いながら鐘に近づき、恨めしそうに鐘を見上げると、飛び上がった鐘の中に入り、鐘を落としてしまった。突然の大音響に驚き慌てふためく能力たちは、釣り上げたばかりの鐘が落ちていっているのを見て、住僧に知らせる。事の次第を聞いた住僧は、何故この場が女人禁制であるのか、鐘にまつわる恐ろしい物語を語り始めた。

昔、ある山伏が真砂の荘司という者の家を宿坊として毎年熊野詣をしていた。荘司は一人娘可愛さから、あの山伏がお前の未来の夫だよなどと冗談を言っていたのだが、幼い娘はそれを真と思ひ込んで成長し、ついには訪れた山伏の寝室へ行って早く妻を迎えろと言ひ出す。逃げ出した山伏は道成寺に頼み込んで梵鐘を下ろしてもらい、その中に隠れたが、山伏を追ってきた娘は毒蛇となって鐘に巻き付き、山伏を鐘もろとも溶かして殺してしまつたのだった。

その時の女の執念が未だに鐘に害をなすのだろうか住僧は語り、力の限り祈って鐘を再び鐘楼へ上げる。すると中からは蛇体となった白拍子が現れ、僧たちに襲いかかる。毒蛇が鐘に向かって火を吐くと、その炎は己が身を焼き、毒蛇は日高川に飛び込んで水底深く消えていった。

※上演中、演出上の都合により、ご入場をお断りする時間帯がございます。あらかじめご了承ください。



清水 義也 しみず よしなり
昭和四十八年横浜市生まれ。二十六世観世宗家観世清和師に師事。五歳にて初舞台。東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。同大学の非常勤講師を勤める。重要無形文化財総合指定保持者。清水義也能の会、澄声会を主宰。海外公演を含め、多数の能公演に出演。愛好家、学校などへの普及を積極的に行う。